

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 月 日

事業所名 ピースドリーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	33%	67%		目の届きやすい点はいいがもう少し広さが欲しい。
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	67%	33%		対象児童がいないため、バリアフリー化は出来ていない。(入口・トイレは配慮が出来ていない) 施設内の段差はない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画	100%	0%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%	ホームページにて公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%		第三者への外部評価は行ってない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	67%	33%	月1回、職員がそれぞれ学んだことを他職員へ伝える研修を行っている	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	更新時のアンケートをもとに職員間で分析し、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用	83%	17%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員で、療育内容を考え子どもたちの苦手な事や年齢にあった療育プログラムを立案している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	子どもたちが好きなプログラムは毎月取り入れ、それ以外に関しては固定化しないように新しいものや、方法を変えて行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		1日利用になると、少し間延びすることが多いので、その時その時で変更することもある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別療育、集団療育と分けてそれぞれの苦手なことが克服出来るように行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%		児童が来所前に、その日の流れを確認し、その日のリーダー職員がホワイトボードにそれぞれの役割や流れを記載している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%		児童の終了時間がバラバラのため、出来ない時もあるが、出来ない場合には翌日に共有する時間を設けている。共有ノートに連絡事項を記入し、何時でも確認出来るようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83%	17%	毎日、連絡帳と支援記録を取っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	半年ごとにモニタリングを行い、支援の見直しを行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が担当者会議に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	必要があれば、その学校に通っている児童の利用日を前月にプリントにして渡している。	子どもの下校時間等に関しては、保護者からお伺いすることがほとんどのため学校との情報共有は出来ていない。送迎対応に関しても、保護者を通して確認することが中心になっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え	17%	83%		対象児童がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	100%		今現在、対象児童がいないが、そのような時には支援内容を提供できるような機会を設けたいと思う。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	67%		コロナ禍で出来ていなかったが、今後取り入れていきたい。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	83%		
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や電話等で直接保護者の方と話す機会を設けたり、連絡帳で日々の様子をお伝え出来るようにしている。	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	33%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に保護者に説明しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	日々の連絡帳や、月1回の家庭療育ノートで保護者の悩み等を確認している。	家庭療育ノートでは、職員同士で保護者の悩みを確認し、支援会議で話し合いの場を設けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	67%	33%		コロナが落ち着いてきたので、今後取り入れていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適	100%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	ドリーム通信という会報を定期的に発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	鍵付き書庫で保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	83%		コロナが落ち着いてきたので取り入れていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%	非常災害時対応は保護者にも周知していただけるように、手紙で配布。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎月のプログラムで避難訓練を入れているので、その際に児童と一緒に考える機会や実際に避難している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	年に一度開催している。	
	41	この場合は場合により、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	17%	対象児童はいるが、契約時に保護者へはどのような場合に身体拘束(行動を制止)をするのかを説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アセスメントの際には確認している。全職員が確認できるよう、教室内にアレルギー一覧表を掲示している。	必要に応じて、医師の指示書を頂くようにする。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットがあった際には報告書を記入し、職員間で共有出来るようにしている。	事例集は作成していないので、職員会議の中でどのような事例がヒヤリハットなのかを考える機会を設ける。	